

# 魅力発信！えひめ農業

令和6年4月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、4月中に各普及拠点から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 目次

## 内容

目次	1
4月のトピックス5選	3
いちご優良苗の育成に向けた育苗講習会を開催	3
上浦地区再編復旧園進捗状況を共有	3
中予地区で若い新規就農者が誕生	4
JA えひめ南みかん学校が開校	4
青年農業者に鳥獣害対策研修会を開催	5
■東予地方局地域農業育成室	6
新規就農サポートチームの活動を強化	6
新規就農者、農家アドバイザーから学ぶ	6
■東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班	6
新規就農者にも推進！うまの花木産地拡大	7
学校給食米田植え体験 地産地消を促す	7
■東予地方局産地戦略推進室	7
新規有望花木の挿し木技術の検討	8
■今治支局地域農業育成室	8
さといも優良種苗の生産・確保に向け、関係機関との協議及び新たな技術実証に着手	8
災害復旧園で現地映像による遠隔協議を実施	9
■今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	9
ドローン利用によるかんきつ防除の普及実証	9
「しまなみみんなのディッシュ」の組織強化を目指して協議会を開催	10
花木のせん定・栽培講習会を開催	10
■中予地方局地域農業育成室	11
堆肥の投入と緑肥によるかんきつ基盤整備園の土壌改善効果を確認	11
施設なすで土着天敵タバコカスミカメの導入が本格化	11
■中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	12
砥部町七折地区で新たな担い手が誕生！	12
■中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班	12
久万農業公園で2人が研修を開始	12
雑穀を利用した新商品の開発と販売	13
■中予地方局産地戦略推進室	13
母の日に向けた「さくらひめ」の出荷始まる	13
■南予地方局 地域農業育成室	14
宇和島就農支援システムにおける就農希望者の就農体験がスタート	14
水田濁水を抑える石膏資材をドローン散布	14

■南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班	15
キウイ雄花の収穫適期等目合わせ会を開催	15
集落での水稲共同作業に向けて話し合い	15
■南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班	16
愛南地区青年農業者協議会が第 60 回若い農業経営者大会で最優秀賞を受賞	16
■南予地方局産地戦略推進室	16
つるむらさきの土壌消毒実証ほの調査を実施	16
■八幡浜支局地域農業育成室	17
かんきつせん定講習会を開催	17
外国人材活用促進に向けた支援	17
■八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	18
ぶどう栽培における自動走行防除機の試験走行を実施	18
■八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	18
新たなくり生産園地における鳥獣害対策を支援	18
大野ヶ原地域における特産野菜の栽培推進	19
■八幡浜支局産地戦略推進室	19
令和 6 年度の台湾へのかんきつ輸出に向けて検討会を開催	19
■農産園芸課高度普及推進グループ	20
第 1 回さといも優良種芋増殖技術講習会を開催	20
県育成水稲品種「ひめの凜」認定栽培者講習会の開催	20
IoT の導入で儲かる施設甘長とうがらし栽培	21

## 4月のトピックス5選

標 題	いちご優良苗の育成に向けた育苗講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月24日、25日	場所	西条市神戸、四国中央市中之庄	
指導対象	JA えひめ未来いちご部会生産者（7人） JA うまいちご部会生産者（5人）	連携機関	JA（えひめ未来、うま）	
普及指導内容	<p>○本格的ないちごの育苗管理が始まることから、基本的な育苗管理技術や暑熱対策、病害虫対策について講習を行った。</p> <p>○いちごは、着果負担のかかる12月までに株を大きくすることで、その後の収量が向上する。講習会では、過去のデータを用いながら、育苗が12月まで株の生育に影響を及ぼすことを視覚的に分かりやすく説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、充実した苗の重要性を再認識できたとの声が聞かれた。</p> <p>○また、重要病害の萎黄病や炭そ病に対する太陽熱消毒において、菌が死滅するために必要な積算温度などの新たな知識を得ることができたとの声もあった。</p> <p>○当室では、引き続き巡回指導を強化し、早期の炭そ病診断や施肥管理指導を始めとした優良苗育成の支援を行っていく。</p>			
			<p>左：育苗管理講習会 中：管内の育苗状況 右：早期の炭疽病診断</p>	

標 題	上浦地区再編復旧園進捗状況を共有		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年4月17日	場所	JA おちいまばり営農事業本部	
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関（12人）	連携機関	JA おちいまばり、農村整備課	
普及指導内容	<p>○基盤整備工事と営農の現況及び今後の計画を関係機関で共有し、今後、意識を統一して事業を進めていくことを目的とした検討会を開催した。</p> <p>○JA から基金事業の計画、当室から定植後の生育状況と今後の対策、農村整備課から工事の工程について説明した後、意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○定植した苗木については、生育状況に応じた芽かきや施肥等の管理を行い、順調な生育を促す。また、工事が終了した園地について、土壌流亡防止・土壌改良効果を目的に、できるだけ早くソルゴーを播種する。</p> <p>○工事中に、今後の梅雨時期の降雨を見越し土壌流亡対策を講じていくこととなった。</p> <p>○当室では、早期の再編復旧がなされるように栽培指導を継続するとともに、スマート農業体系の構築、横展開を実現できるよう支援していく。</p>			
<p><b>【進捗状況】</b> 上浦地区再編復旧園盛工区の基盤整備工事が進んでいく中、ハウス建設予定の約1haの園地では3月に紅プリンセスと紅まどんなの定植を終了した。</p>			 <p>関係機関で現状を共有</p>	

標 題	中予地区で若い新規就農者が誕生		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月18日	場所	JA えひめ中央みなとまちまってる	
指導対象	JA えひめ中央新規就農研修センター 研修生 (32人)	連携 機関	JA えひめ中央、えひめ農林漁業振興 機構	
普及指導 内容	<p>○JA えひめ中央新規就農研修センターの研修修了式・開始式が開催され、修了した9人が中予管内で就農した。また、8人が研修生として2年間の研修を開始した。</p> <p>○当室では、参加者に対し、就農支援制度の概要や病害虫対策など普及指導員が即相談に応じる「リアルタイム農業普及指導ネットワーク」の情報提供、若手普及職員が管内の農作物等を紹介する愛媛CATV「キラキラ農業！大好きえひめ」を放映した。</p> <p>○また、仲間づくりと情報収集の場として、青年農業者協議会への加入を促した。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者は、農地及び資金の確保、栽培作物の管理など不安を抱えている者が多いことから、当室では、定期的に就農相談や栽培指導を実施し「稼げる、かっこいい、感動を楽しめる」農業経営の早期実現を図る。</p> <p>○また、関係機関と連携しながら研修生に対し就農計画の作成を指導し、スムーズに就農できるよう支援する。</p>			



左：新規就農に関する情報提供  
右：新規研修生の挨拶

標 題	JA えひめ南みかん学校が開校		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月11日、25日	場所	宇和島市吉田町喜佐方	
指導対象	JA えひめ南みかん学校研修生(5人)	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○担い手の確保育成を目的としたJA えひめ南みかん学校が4月3日に開校した。</p> <p>○当室は、果樹栽培の基礎について座学形式で同校の研修をサポートしている。</p> <p>○今回、果樹に関する基本的な知識の向上を目的に生産動向、基本的な樹形や枝管理等の指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修生からは、「どのような園地が温州みかんや中晩柑の栽培に適しているのか」「老木の更新のタイミングはいつか」など熱心な質疑があった。</p> <p>○今後、当室では果樹栽培の基礎を毎月2回指導するほか、鳥獣害対策、GAP等の認証制度についても指導する。</p>			



左：開校式に出席した研修生  
右：座学の様子

標 題	青年農業者に鳥獣害対策研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年4月18日	場所	大洲市	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会 員（13人）	連携 機関	大洲市、内子町	
普及指導 内容	<p>○管内で鳥獣害が拡大している現状を踏まえ、内子町地域おこし協力隊の浪江氏を講師に招き、鳥獣害対策研修を開催した。</p> <p>○ライトや電気柵・ワイヤーメッシュ柵などの防獣資材を用いた、個人で行う鳥獣対策について確認した。</p> <p>○捕獲者が減少しているため、狩猟免許取得希望者に対しサポート事業を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○研修終了後は、参加者からの質問が途切れず、鳥獣被害は管内の重要課題であると再認識した。</p> <p>○今後も、関係機関と連携しながら、当班が先頭に立って対策技術の指導を行い、被害減少を目指す。</p>			
				<p>左：青年農業者への研修会 右：質問をする青年農業者</p>

標 題	新規就農サポートチームの活動を強化		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月	場所	西条市内各地	
指導対象	新規就農者、研修生	連携機関	西条市、JA（えひめ未来、周桑、東予園芸）、日本政策金融公庫ほか	
普及指導内容	<p>○西条市では、令和5年度、農家子弟や他産業から参入する就農準備研修希望者や新規就農者が39名誕生した（例年は、平均15人／年程度）。</p> <p>○ただし、農業技術が未熟な者や十分な農業所得が得られない者が一定数いるため、関係機関が定期巡回結果等を共有し、濃密なサポートを展開している。</p> <p>○特に、昨年度から新たに取り入れた認定新規就農者の認定に関わる事前面談では、十分な所得が得られる実現可能な計画となるまで面談を重ね指導していくことなど、活動を強化することを申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○関係者からは「活動の強化でより多くの就農者の確保につなげたい」等の声が聞かれた。</p> <p>○当室では、今後も研修会の開催や農家アドバイザーの協力を得ながら、引き続き新規就農者の早期自立に向け支援していく。</p>			
			<p>左：新規就農者 定期巡回</p> <p>中：西条営農推進 連絡会議</p> <p>右：認定審査に係る 事前面談会</p>	

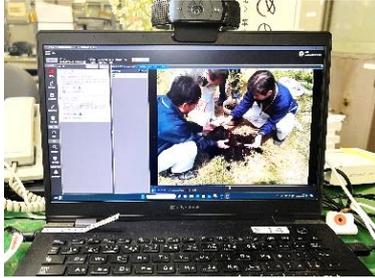
標 題	新規就農者、農家アドバイザーから学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月25日	場所	西条市小松町	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（8人）	連携機関	西条市、農家アドバイザー（農業指導士）	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者等を対象に、農業経営に必要な基礎知識や基本技術の習得を目的とした「就農初期農業者研修会」を開催している。</p> <p>○今年度第1回目は、農家アドバイザーのほ場にて「農業経営の変換と経営のポイント」と題した講話、トマト・イチゴ・メロン・スイカ等の施設栽培の見学会を実施した。</p> <p>○当室からは、愛媛県農業指導士制度や補助事業の説明、及び農業大学の研修や病虫害発生予察注意報等の情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修生からは「市内に参考となる経営者がいることを知り、継続して訪問していいと言われて嬉しかった」「就農時の品目選択の視野が広がった。地元若手農家とも知り合えてよかった」等の声が聞かれ、今後の経営や就農実現への期待の高まりが感じられた。</p> <p>○当室では、引き続き関係機関と連携しながら、新規就農者の育成に取り組む。</p>			
			<p>左：熱心に質問する新規 就農者</p> <p>右：農家アドバイザーから マンツーマン指導を受 ける</p>	

標 題	新規就農者にも推進！うまの花木産地拡大		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班 東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月24日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	花木生産者（6人）、新規就農者（2人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○「うまの花」として首都圏市場で評価されている「ピットスポラム」等の生産拡大を目的に生産者会を開催、花木に関心のある新規就農者にも参加を呼び掛けた。</p> <p>○会では、生産管理と経営収支、実証試験結果及び新規有望品目の特徴を説明するとともに、「品質向上」「出荷調整の均一化」「新規品目の導入検討」を重点目標とした。</p> <p>○また、新規就農者に対して、管内花木生産の実績に基づいた経営試算を紹介するなど、花木栽培導入のメリットを伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○「うまの花」のブランド力強化・生産拡大について、意欲の向上が図られた。</p> <p>○新規就農者は、新規有望品目のほ場条件や病害虫対策等を質問するなど、花木生産の導入意欲を見せていた。</p> <p>○今後、新規就農者に対し花木生産導入を支援し、経営の早期安定化を指導するとともに、挿し木講習会等で苗を確保し、「うまの花」の生産拡大を目指す。</p>			
				<p>左：重点目標を検討</p> <p>右：花木栽培の魅力を指導</p>

標 題	学校給食米田植え体験 地産地消を促す		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年4月27日	場所	四国中央市土居町蕪崎	
指導対象	市内小学校児童及び保護者（127人）	連携機関	四国中央市、JA うま、NOSAI えひめ	
普及指導内容	<p>○域内の地産地消の推進を目的とした地産地消推進委員会が、市内小学校児童とその保護者らを対象とした「学校給食米田植え体験会」を開催し、米作りを通じた地域食材への関心と消費拡大を促した。</p> <p>○当班は「イネの学習」として、籾播きから収穫までのイネの生育過程と生産者の農作業を説明後、参加者が手植えする田植え作業を指導した。</p> <p>○今回の田植え分を含め、市内52戸が生産する「コシヒカリ」や「にこまる」は、「うまそだち」の名称で市内の学校給食に提供されている。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「数本の苗からどれだけのお米がとれるのか」「このイネがごはんになるのが楽しみ」などの声が聞かれ、地域食材への意識の高まりが見られた。</p> <p>○8月下旬には収穫祭として稲刈り体験等を予定しており、今後とも児童生徒の食農教育や地産地消の取組みを支援する。</p>			
				<p>左：学校給食米になるイネの学習指導</p> <p>右：ぬかるんだ田んぼの中での田植作業</p>

標 題	新規有望花木の挿し木技術の検討		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月22日	場所	西条市丹原	
指導対象	県立丹原高校 教諭（1人） 生徒（2人）	連携機関	丹原高校	
普及指導内容	<p>○丹原高校と連携し、「レプトスペルマム」等新規有望花木の繁殖効率の良い挿し木技術の検討を開始した。</p> <p>○当日は、現地実証ほ場に丹原高校の教諭、生徒が訪れ、31品目の内、不適応の品目を除いた18品目の穂木を採取し持ち帰った。</p> <p>○丹原高校は、菊で高い発根率の実績がある密閉挿しを応用した挿し木技術により、新規有望花木の実証試験を行う。</p>			
結果と今後	<p>○今後、丹原高校と連携して挿し木の発根率の調査を行い、繁殖率の高い品目については、農家に対し、挿し木技術の普及指導を行っていく。</p> <p>○また、繁殖率の低い品目については、発根率が向上するよう、挿し木時期や温湿度等の環境を変えて検討する予定。</p>			
				<p>左：穂木の採取</p> <p>右：採取した穂木の水揚げ</p>

標 題	さといも優良種芋の生産・確保に向け、関係機関との協議及び新たな技術実証に着手		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年4月5日、10日	場所	JA おちいまばり（今治市乃万）ほか	
指導対象	さといも生産者（3人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○さといも優良種芋を安定供給する体制を構築するため、関係機関と種芋の増殖法に係る協議を行うとともに、農林水産研究所から前年作の親芋を購入し、定植苗を直接採取する栽培実証を開始した。</p> <p>○併せて、さといもの早期出芽について、大手メーカーと種芋（じゃがいも）に植物ホルモンガスを添加した出芽試験を行っている生産者の協力を得て、同技術のさといもへの応用を実証中。</p>			
結果と今後	<p>○栽培実証により、親芋を28℃で管理することで、草丈20cmの定植に適した苗が、20日程度の短期間で得られ、ホルモンガスの添加実証により、複数の腋芽が短期間で成長することが確認された。</p> <p>○今後は、増殖した苗の生産力等を確認するとともに、収穫済みの親芋から早期に大苗を育苗できる技術等を確立することにより、低コストで罹病リスクが少ない優良種芋の生産体制の構築を目指す。</p>			
				<p>左：優良種芋確保に向けた協議</p> <p>中：親芋の伏せ込み作業</p> <p>右：植物ホルモン（ガス）供給装置</p>

標 題	災害復旧園で現地映像による遠隔協議を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年4月18日	場所	今治市上浦町井口・盛地区	
指導対象	JA 営農指導員等	連携機関	JA おちいまばり、果樹研究センター、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○豪雨災害からの再編復旧を目指している上浦地区の井口・盛地区において、かんきつ大苗育苗や基盤整備園の土壌改良の様子を「リアルタイム農業普及指導ネットワーク」で映像配信し、今後の対策について関係機関で協議した。</p> <p>○現地映像を見た果樹研究センターや農産園芸課の担当者からは、育苗の改善点や一部で定植の始まった基盤整備園地の土壌流亡対策等に対して助言があった。</p>			
結果と今後	<p>○井口地区では良質苗木の育成に取り組むとともに、盛地区では整備園地の土壌の流亡防止と土づくりのため、今夏から緑肥作物の栽培に取り組む。</p> <p>○今後、栽培を始める新規就農者へ濃密で高レベルの現地指導を行うため、映像による各分野の専門家の意見を聞く遠隔診断を実施予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>大苗育苗ほ場での協議（井口）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>映像による関係機関との協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>災害復旧園地での協議（盛）</p> </div> </div>				

標 題	ドローン利用によるかんきつ防除の普及実証		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年4月4日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	ドローン防除実施担当機関（12人）	連携機関	JA おちいまばり広域島しょ部指導員	
普及指導内容	<p>○広島県の防除作業受託業者を招いて、ドローンによるかんきつ防除の作業手順や注意点など、関係機関担当者での情報共有を図った。</p> <p>○当班から「昨年度の実証散布結果及び防除上の課題」、作業受託業者から「具体的な作業手順や飛行ルートの確認方法」などを説明した後、実際にドローン防除を行い、今後の技術普及の試金石となるよう入念に打合せを行った。</p>			
結果と今後	<p>○実証散布の結果、飛行ルートの改善により、昨年と比較し薬剤の付着ムラが減少した。</p> <p>○管内の一部では、今年から JA によるドローン防除の受託が始まることから、当班岩城駐在の園地で防除効果の実証散布を実施していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：作業手順の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：レモン園でのドローン防除実演</p> </div> </div>				

標 題	「しまなみみんなのディッシュ」の組織強化を目指して協議会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月23日	場所	今治支局3階会議室	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員 (7名)	連携 機関		
普及指導 内容	○「せとうちみなとマルシェ」に継続して共同出店しているグループ「しまなみみんなのディッシュ」は、販売力強化と組織の自立化を進めるため、今年度第1回目の協議会を開催し、今後のマルシェやタオル美術館常設コーナーへの出店等について意見を交換した。			
結果と今後	○せとうちみなとマルシェの今後の出店については、積極的なグループ員の自主的に参加する意向を重視し、自立化に向けた方向で支援を継続することとした。 ○島しょ部在住者など、交通費や時間の制約によりマルシェへの参加が難しいグループ員には、せとうちみなとマルシェ事務局が主催するECサイトでのPRおよび販売の場を設けることとした。 ○タオル美術館への出店については、販売機会を逸さないよう、在庫情報を一元化するとともにグループ員の声を反映した新たな提案につなげる機会を設けることとした。			
				オンライン参加者を交えた協議

標 題	花木のせん定・栽培講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月12日	場所	今治市乃万、JA おちいまばり花き集出荷場	
指導対象	花木栽培者 (13人)	連携 機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導 内容	○管内の主要種である「ビバーナム・ティナス」「ピットスポラム」「メラレウカ」の現地ほ場にて、高品質生産に必要な春期のせん定講習を行った。 ○あわせて、農林水産研究所花き研究指導室と連携して、新たに管内に導入する花木種「アカシア」「グミ」「レプトスペルマム」のそれぞれの系統の特性や栽培上の注意点を説明した。			
結果と今後	○花き研究指導室やJAとも連携して、新たな花木種のうち、管内に適する系統の早期決定と推進を図る。 ○また、「ビバーナム・ティナス」は、3月上旬に出荷が終了する他産地との差別化を図るために、晩生の系統が多い当地の特徴を生かして、3月上旬以降の出荷体制を整える。			
				左：せん定時の注意点を説明 右：新たな花木種の栽培を説明

標 題	堆肥の投入と緑肥によるかんきつ基盤整備園の 土壌改善効果を確認		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月22日	場所	松山市下難波	
指導対象	下難波地区基盤整備受益農家(3人)	連携 機関	農村整備第二課、JA えひめ中央、松 山市農業指導センター	
普及指導 内容	<p>○中予管内で行われている樹園地再編整備では、地力に乏しい花崗岩風化土（真砂土）が多いことから、土壌改善を図るため、定植前に10t/10a以上の堆肥投入と緑肥（ソルゴー、ヘアリーベッチ等）の栽培を指導している。</p> <p>○その効果を確認するため、松山市下難波地区の基盤整備園地で、地力の目安となる腐植含量を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○造成時（更地状態）の腐植含量は0.15%であり、堆肥投入（約20t/10a）直後の園地では0.35%となった。</p> <p>○さらに、継続して緑肥栽培（ソルゴー）等により土づくりに努めている園地の腐植含量は、2年目で1.3%、3年目では1.7%となり、徐々に増加していた。</p> <p>○これらのことから、堆肥投入や緑肥栽培の効果は確認できたが、基準値（3%以上）には至っていないことから、調査を継続するとともに、データを農家にフィードバックし、一層の土づくりの推進に努める。</p>			
<p>基盤整備園地での腐植含量（下難波地区） 冬春作の草生状況（左：ヘアリーベッチ、右：クリムゾンクローバー）</p>				

標 題	施設なすで土着天敵タバコカスミカメの導入が 本格化		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月26日	場所	松山市荏原	
指導対象	施設なす生産農家(21戸)	連携 機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導 内容	<p>○施設なすでの天敵利用に向け、地方局予算「なす産地強化対策事業」（R3～5年度）で作成した「天敵利用マニュアル」を活用し、アザミウマ類やコナジラミ類の天敵であるタバコカスミカメによる防除技術の導入を開始。</p> <p>○講習会や個別指導により、現在、施設なす栽培農家21戸のうち15戸（昨年13戸）が、4月から天敵のタバコカスミカメを順次放飼している。</p>			
結果と今後	<p>○4月初旬に天敵を放飼した8戸の施設では、害虫のアザミウマ類やコナジラミ類は確認されず、天敵の効果が現れていることを確認。</p> <p>○引き続き、施設なす農家や露地なす農家に対し、「天敵利用マニュアル」を活用しながら導入を推進する。</p> <p>○また、きゅうり等の果菜類に対しても天敵を活用した防除体系を実証する予定。</p>			
<p>左：「天敵利用マニュアル」を用いて農家に指導 右：タバコカスミカメ（天敵）を放飼</p>				

標 題	砥部町七折地区で新たな担い手が誕生！		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年4月11日	場所	砥部町七折集会所	
指導対象	ななおれ梅組合研修生（1人）	連携機関	ななおれ梅組合、砥部町	
普及指導内容	<p>○農事組合法人ななおれ梅組合では、昨年より受入れていた研修生（28歳、松山市出身）の修了式を開催した。</p> <p>○研修生は、この1年間で七折小梅の栽培や加工、流通を学んだほか、組合員のほ場でかんきつ等の栽培についても研修を受けた。</p> <p>○当班では、研修開始前から今日まで、梅の技術指導や就農計画の作成など就農に向けて支援した。</p>			
結果と今後	<p>○研修生は研修開始と同時に、組合員が斡旋した当地区の住居に夫婦で移住しており、今月より近隣の農地（80a）を借入れ、七折小梅を中心に、かんきつやさといも栽培で経営を開始した。</p> <p>○当班では、栽培技術の向上と儲かる農業経営に向け、今後も継続して指導する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">左：修了証書の授与 右：研修中の栽培指導</p>				

標 題	久万農業公園で2人が研修を開始		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年4月1日	場所	久万農業公園	
指導対象	久万農業公園研修生（2人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	<p>○久万高原町営農支援センターでは、新規就農者確保・育成の研修事業を実施しており、今年度は2人（町外出身）の研修生を受入れた。</p> <p>○受入式では、町やJAから研修の心構えやJA組織について説明し、当班はトマト栽培の概要や今月から作業が始まる育苗管理、定植準備についての勉強会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、研修生は2年間、同施設においてトマト栽培の技術習得や就農計画を作成し、町内での就農を目指す。</p> <p>○当班は、定期的に研修生に対する勉強会を開催し、知識や技術の習得を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">左：新規研修生 右：農業指導班による勉強会</p>				

標 題	雑穀を利用した新商品の開発と販売		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年4月7日、21日	場所	久万高原町内	
指導対象	県立上浮穴高校生（6人）、カフェスタッフ（1人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○雑穀栽培の普及により、高齢者の生きがいがづくりや荒廃農地対策、地域食材の伝承につながるため、地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」を活用し、雑穀を利用した新たな商品開発に取り組んでいる。</p> <p>○県立上浮穴高校生が考案した地とうきびの粉を練りこんだ「クマ式きび<sup>2</sup>ナン」を、町内の商店街で開催された軽トラ市「くまくるまるしえ」でお披露目し、販売した。</p>			
結果と今後	<p>○「クマ式きび<sup>2</sup>ナン」は、約2時間で70個（1個150円）が完売し好評であった。</p> <p>○さらに、町内の「b-standing café」（ビースタANDINGカフェ）では、「クーマカレー」を主菜としたヴィーガン向けのランチをメニュー化し提供を開始。</p> <p>○新たな商品開発により、原材料となるたかきびが不足していることから、同班では栽培面積の拡大を推進するとともに、雑穀の需要拡大により地域農業の活性化を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「くまくるまるしえ」での販売</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「クマ式きび<sup>2</sup>ナン」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ビーガン向けのクーマカレー</p> </div> </div>				

標 題	母の日に向けた「さくらひめ」の出荷始まる		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月24日	場所	松山市伊台地区	
指導対象	「さくらひめ」生産者	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○当室では、地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、種苗コスト低減と高校卒業式や母の日等の需要に向けた夏季自家育苗技術の実証に取り組んでいる。</p> <p>○実証ほの生産者に対し、需要期の母の日に向けた栽培指導と出荷状況（切り花・鉢物）を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○前年度に実施した冷蔵設備を利用した夏季自家育苗（10月下旬定植）により、2月から1番花の出荷が始まり、種苗費のコスト低減と高校卒業式用の注文に対応ができた。</p> <p>○さらに9月中旬、10月上旬、11月上旬定植も組み合わせることで継続的な出荷につながった。</p> <p>○栽培実証ほでは、母の日に向けた2番花の開花も始まっている。</p> <p>○引き続き、夏季自家育苗技術実証と認知度向上に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>左：実証ほの2番花（開花始め）</p> <p>右：母の日用に出荷する「さくらひめ」（鉢物）</p> </div> </div>				

標 題	宇和島就農支援システムにおける就農希望者の就農体験がスタート		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年4月8日～7月14日	場所	宇和島市（旧宇和島市・吉田町）	
指導対象	就農希望者、受入農家（5戸）	連携機関	宇和島市、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○県・市・JA で構成する「宇和島市農業支援センター」では、新規就農者の確保を目的とした「宇和島就農支援システム」を昨年8月から運営している。</p> <p>○同システムで受け入れた就農希望者の農業体験について、地域や品目が異なる5戸の受入農家の調整ができたことから、2週間毎の就農体験がスタートした。</p>			
結果と今後	<p>○就農体験終了後に、就農希望者と受入農家の双方の意向を確認し、マッチングが成立すれば農業研修に進むことができる。</p> <p>○当室では就農希望者と受入農家が活用できる補助事業申請を通じて支援していく。</p> <p>○また、今回の研修結果を検証したうえで、同システムの支援方法等を改善し、新規就農者の確保と地域農業の維持を図る。</p>			
				<p>左：支援センターからの説明</p> <p>右：親方農家での体験研修の様子</p>

標 題	水田濁水を抑える石膏資材をドローン散布		機関名	南予地方局地域農業育成室 " 鬼北農業指導班
年月日	令和6年4月15日	場所	松野町	
指導対象	広見川等農業排水対策協議会	連携機関	(株)あう農園、JA えひめ南、宇和島市、松野町、鬼北町	
普及指導内容	<p>○四万十川支流の広見川等への農業濁水の流出軽減に取り組んでいる広見川等農業排水対策協議会は、水田の代かき時に発生する濁水の土壌粒子に吸着して濁りを抑える効果がある石膏資材をドローンで省力的に散布する実証を行った。</p> <p>○鬼北町の農業法人(株)あう農園の協力で散布し、当協議会が招いた四万十川流域の漁協関係者や四万十町役場の職員、地元の農家らが参加し、その様子を見守った。</p>			
結果と今後	<p>○4筆の水田約50aを約20分で均一に散布した状況をみた参加者からは、「これほど短時間で撒けるのなら広い面積でも行える」との感想が聞かれた。</p> <p>○今後も濁水の軽減対策である「浅水代かき」「止水板による排水管理」等について啓発するとともに、石膏資材の散布を推進する方策を検討し、河川環境を守る取り組みを続けていく。</p>			
				<p>左：ドローンによる石膏資材散布</p> <p>右：機体に石膏資材を補給</p>

標 題	キウイ雄花の収穫適期等目合わせ会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年4月26日	場所	松野町	
指導対象	キウイ花粉の生産者（3人）	連携機関	松野町、松野町農林公社、果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○キウイ花粉安定生産を目的に目合わせ会を開催し、花粉生産者のほ場を巡回の上、生育状況や花の収穫適期等について協議した。</p> <p>○昨年、全体的に収穫適期より前に収穫した反省から、花粉を最も多く採取できるバルーン状の花を収穫するように意識統一を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「どの形状の花を収穫すればよいか再確認できた」「5月に入ると、開花の状況をこまめに確認することが重要だと分かった」等の感想が聞かれた。</p> <p>○今後も花の生育状況等を関係機関と共有して、収穫適期を指導するなど、高品質で安定した花粉生産を支援していく。</p>			
			<p>左：生育状況を確認 右：キウイの花蕾</p>	

標 題	集落での水稲共同作業に向けて話し合い		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年4月20日	場所	松野町富岡	
指導対象	松野町集落組織（10人）	連携機関	松野町	
普及指導内容	<p>○当班は、耕作放棄地解消を目指す当組織が、今年度初めて取り組む共同での水稲栽培（2ha）について、必要労働時間や資材費等の経費積算など栽培計画の作成を支援してきた。</p> <p>○今回、受託水田の湛水や田植え、除草についての協議に際し、防除薬剤の苗箱処理や害虫対策を意識した畦草刈りタイミング等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○代表者からは「今年は受託水田の栽培に専念し、問題点を見つけ出して来年産につなげていきたい」との決意表明があった。</p> <p>○田植えは4月23日から始まり、計画どおり作付けが進むよう支援を継続する。</p>			
			<p>打合せの様子</p>	

標 題	愛南地区青年農業者協議会が第 60 回若い農業経営者大会で最優秀賞を受賞		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和 6 年 4 月 25 日～26 日	場所	松前総合文化センター	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会員(6人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○愛南町における課題解決に向けたプロジェクト活動に取り組む愛南地区青年農業者協議会は、「第 60 回若い農業経営者大会」において「農業用水水源の水質浄化活動」というテーマで発表し、最優秀賞を受賞した。</p> <p>○当班は、同協議会の運営支援を継続的に実施しており、本テーマにおいても調査方法等について会員と協議しつつ課題解決に向け助言指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今回の受賞を受け、会員からは今後のプロジェクト活動に対し、より一層意欲的に取り組む姿勢が見受けられ、協議会活動のさらなる活発化が期待できる。</p> <p>○今後、地域の基幹品種である「河内晩柑」の縮間伐実証や鳥獣害対策等に取り組むこととしており、当班は引き続き、同協議会の活動を支援していく。</p>			
 <p>廃材を利用した浮島</p>		 <p>授賞式</p>		<p><b>【発表概要】</b>          水温上昇等で発生するアオコによる水質汚濁が、かん水設備の目詰まりの要因となっていることから、養殖業で使用するブイの廃材を利用し、マコモダケ栽培による富栄養化抑制と遮光率向上によるアオコ発生低減に取り組み、一定の抑制効果を確認した。</p>

標 題	つるむらさきの土壌消毒実証ほの調査を実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和 6 年 4 月 4 日、15 日、25 日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	つるむらさき生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○センチウによる根こぶ症状の発生がつるむらさきの減収要因の 1 つとされているため、その対策として、3 月に実証ほを設置し、慣行の土壌処理剤と石灰窒素資材の同時施用による被害軽減効果を検証しており、この処理による初期生育への影響を確認するため、約 10 日おきに 3 回、生育調査を実施した。</p> <p>○当日は生産者立ち合いのもと、草丈や葉数を確認するとともに、収穫する分枝節位的位置や防除管理など、今後の栽培管理についても協議した。</p> <p>○また、昨年同時期との生育差等についても聞き取りを行った。</p>			
結果と今後	<p>○4 月時点では試験区と対照区で明確な差はなく、生産者から「現時点では悪影響がないため、今後に期待したい」といった意見があった。</p> <p>○今後は、5 月中旬から順次行われる収穫作業にあわせて生育および収穫状況等を継続的に調査するとともに、農薬メーカーと協力して土壌中のセンチウ密度を調査する予定で、それらの結果に基づいて栽培指針への反映を検討する。</p> <p>○なお、つるむらさき認知度向上対策として 5 月に管内飲食店とのコラボ商品発表を予定している。</p>			
				<p>左：定植直後のつるむらさき          右：生産者とともに生育を確認</p>

標 題	かんきつせん定講習会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年3月19日～4月17日	場所	伊方町三崎地区（8か所）	
指導対象	かんきつ生産者（延べ96人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○令和6年産の高品質安定生産に向けて、三崎地区でせん定講習会を実施した。</p> <p>○今年産は、昨年産の着果過多と夏秋季の干ばつ等の影響で、樹勢の低下や着花量の減少が懸念されているため、樹勢回復のための液肥散布や、かぶさり枝の切除等、着花量の確保に向けたせん定方法について指導した。</p> <p>○あわせて、作業性の向上のため、縮・間伐や樹高の切り下げについても指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「樹勢回復や着花確保だけでなく、スプリンクラーでも農薬が樹冠内部にかかるよう、しっかりと取り組まなければならない」等の声が聞かれた。</p> <p>○今後は、芽花管理や摘果についての講習会を実施する等、引き続き、生産量確保と高品質生産に向けて指導を行っていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：太枝単位で実施した縮伐樹</p> <p>右：横向きからやや下向きの枝を残す</p> </div> </div>				

標 題	外国人材活用促進に向けた支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年4月25日	場所	八幡浜市	
指導対象	外国人材活用意向農家等（2法人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○多様な人材活用によりかんきつ収穫期等の労働力確保を図るため、管内の2法人に対して外国人材活用について紹介した。</p> <p>○特に愛媛県が覚書を締結しているスリランカについて、受入制度の流れや経費などを支援団体協力のもと説明し、安心して制度が活用できるよう支援した。</p>			
結果と今後	<p>○これまで主流であったベトナム人材の確保が難しくなっていることから、当該2法人では他国の人材受入を検討することになった。</p> <p>○今回、新たに雇用するにあたっての流れや経費を把握できたことから、今後、農作業請負方式も視野に入れながら、年間雇用スケジュールを立て、慎重に制度活用を進めていく。</p> <p>○八西地区管内では、外国人材活用を検討する農家が増えてきており、活用事例紹介などの研修会を開催し、労働力確保に向けて支援していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>外国人材受入制度について紹介</p> </div> </div>				

標 題	ぶどう栽培における自動走行防除機の試験走行を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年4月22日	場所	内子町大瀬	
指導対象	ぶどう栽培農家（2人）	連携機関	日本ディーアールシステム株式会社	
普及指導内容	<p>○ぶどう栽培における防除はSS（スピードスプレーヤー）での作業が主流となっているが、さらに作業の省力化を図るため自動走行防除機を導入している農園において試験走行を実施した。</p> <p>○自動走行防除機は専用アプリにより自動的に作業ルートを生成し、スマホ端末から自動運転の操作ができるほか、専用リモコンによる操作も可能であり、タンクの容量は100Lと小さいものの、無駄のない散布によって薬液の節約にもなる。</p> <p>○試験走行では20aのぶどう園地において、販売店の担当者が専用アプリによる作業ルートの設定を行い、自動走行による防除を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○自動走行による防除はできたものの、初期設定に時間がかかることや、枝が伸長した時点で位置情報を正確に感知できるか、などの課題も見つかった。</p> <p>○6月に再度試験走行を実施し、効率的なルートや散布方法を検討するとともに、SSとの作業時間を比較しその実用性を検証する。</p>			
				自動走行防除機の試験走行

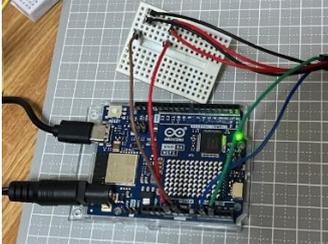
標 題	新たなくり生産園地における鳥獣害対策を支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年4月12日	場所	西予市城川町下相	
指導対象	農地所有適格法人（くり生産）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○農地集積によりくりの生産を拡大している奥伊予地域（城川町）の「(株)西の栗」は、鳥獣害防止への取組が急務となっている。</p> <p>○このため、くりの新植園地で、イノシシ等による苗木への被害を防ぐ方法について指導した。</p> <p>○西予市から鳥獣侵入防止用の鉄柵や捕獲用罠の導入の際に利用できる補助事業について説明した後、園地で必要となる柵の枚数や設置方法を確認した。</p> <p>○また、定植後の苗木の状況を確認し、今後の栽培管理について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○くりを新植した園地に必要な鳥獣害対策について、生産者の認識を深めることができた。</p> <p>○今後も鳥獣害対策を含め、栽培管理の指導や補助事業の活用等の伴走支援を行い、くりの生産体制構築を推進する。</p>			
				<p>左：活用可能な補助事業等の説明</p> <p>右：鳥獣害防止柵設置予定の園地の確認</p>

標 題	大野ヶ原地域における特産野菜の栽培推進		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年4月15日、19日	場所	大野ヶ原集会所 大野ヶ原にんにくほ場	
指導対象	大野ヶ原野菜部会員（7人） 大野ヶ原にんにく組合員（4人）	連携 機関	西予市、JA ひがしうわ	
普及指導 内容	<p>○面積の減少が続く特産野菜であるだいこん、キャベツの収量・品質向上に向け、品種、施肥、病害虫防除対策等、生産計画について周知した。</p> <p>○栽培期間が異なる寒地系にんにくは、鱗片分化状況を調査し、調査結果に基づき今後の栽培管理指導を行った。また、労力軽減対策として導入した省力化機械（4機）について、実証結果を基に生産者の利用について周知した。</p> <p>○いずれの品目も、新規生産者の確保が急務であり、情報発信や体験交流の実施を計画した。</p>			
結果と今後	<p>○安定生産のため、栽培管理の徹底、省力化機械・アシストスーツ利用の必要性等について、生産者の認識を深めた。</p> <p>○今後は、新規生産者確保のための環境づくりへの取組みを支援するとともに、ほ場巡回等による栽培指導を行っていく。</p>			
				<p>左：大野ヶ原野菜部会で生産協議 右：にんにくの生育状況</p>

標 題	令和6年度の台湾へのかんきつ輸出に向けて検討会を開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月25日	場所	八幡浜支局、真穴共選	
指導対象	台湾輸出用かんきつ生産者（3人）	連携機関	食ブランドマーケティング課 JAにしうわ	
普及指導 内容	<p>○管内の輸出用柑橘の生産者とJA、県の関係者による柑橘の輸出検討会を開催した。</p> <p>○令和5年度は台湾向けにJAにしうわから「甘平」1.3t、温州みかん2.0tが輸出され、現地での食味評価が高く、国内より高値で取引されている。</p> <p>○このため、6年度も引き続き輸出に取り組むことを関係者間で申し合わせた。</p> <p>○令和4年度の腐敗果多発の要因が、出荷調整の際のブラッシングであったため、5年度はブラッシングをやめたところ、ほとんど腐敗果が発生しなかったことが報告された。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からイセリヤカイガラムシ防除が効果の高い有機リン剤の登録失効などにより難しくなっているとの報告があったため、今後、関係者で新たな防除暦を検討することとした。</p> <p>○9月に改めて検討会を開催し、令和6年度の出荷スケジュールや生産状況等を協議する。</p>			
				<p>左：甘平生産者との輸出に向けた検討 右：温州みかん生産者との輸出に向けた検討</p>

標 題	第1回さといも優良種芋増殖技術講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年4月16日	場所	農林水産研究所 野菜花き調整室	
指導対象	さといも技術指導者 (31人)	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○さといものセル苗による優良種芋増殖技術について、講習および実技指導を実施した。</p> <p>○栄養繁殖性で自家増殖が容易なさといもについて、種芋更新の重要性や必要性を周知した後、親芋の選定、頂芽・腋芽の除去、薬液への浸漬、培地への伏せ込み等の手法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の講習会で、さといも優良種芋増殖技術のうち、伏せ込みまでの技術を身に付けることができた。</p> <p>○今後は育苗管理に努め、約1か月後、大きく生育した副芽をセルトレイに移植する技術を学ぶための講習会を実施する。</p>			
 			<p>左 親芋の選定作業 右 親芋の伏せ込み</p>	

標 題	県育成水稻品種「ひめの凜」認定栽培者講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年4月22日～4月26日	場所	県内6か所 (のべ7回)	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者	連携機関	JA (全農、うま、未来、周桑、今治立花、松山市) 各地方局・支局地域農業育成室 農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○「ひめの凜」の基本技術を中心とした栽培上の留意点と認定制度を説明するため、認定栽培者を対象に、栽培講習会を開催した。</p> <p>○当グループからは、気象条件に応じた栽培のポイント、「愛媛県リアルタイム農業普及指導ネットワーク」を活用した営農相談や栽培技術情報サービスについて説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、既存品種との栽培管理の違いや良食味生産のポイント、同システムの利用方法等について質問が寄せられた。</p> <p>○希望者に対し、同システムを活用した営農相談や定期的な栽培技術情報提供を行う。</p> <p>○引き続き5月7日～13日に4JA (越智今治、えひめ中央、東宇和、えひめ南 (のべ6回)) で、同講習会を開催する。</p>			
<p><b>【「ひめの凜」栽培者認定制度】</b> 同品種の品質管理徹底とブランド米として普及・定着させるために設けられた制度。</p> <p><b>【愛媛県リアルタイム農業普及指導ネットワークシステム】</b> オンラインで普及指導員から農業経営改善指導を受けることができる情報サービス。主な機能は、掲示板とリアルタイム通信。</p>			 <p>基本技術と認定制度を学ぶ</p>	

標 題	IoT の導入で儲かる施設甘長とうがらし栽培		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ	
年月日	令和6年4月25日	場所	今治市		
指導対象	甘長とうがらし生産者	連携機関	今治支局産地戦略推進室		
普及指導内容	<p>○今治支局産地戦略推進室は、今治市玉川町にある甘長とうがらし施設において、単肥を利用した養液栽培の肥料コスト低減技術実証に取り組んでいる。</p> <p>○当グループは同室の活動を支援するため、安価な IoT 機器を用いた肥料濃度等の計測試験と通信環境の確認を行った。</p>				
結果と今後	<p>○安定した濃度を計測するための廃液の回収方法や通信環境改善等の課題が残ったが、スマートフォンから測定データを経時的に確認することができた。</p> <p>○生産者からは、「手間のかかる肥料濃度分析等が、IoT 機器を活用することで自動化できれば画期的」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も今治支局産地戦略推進室と連携して測定項目や実用性の検証を進めながら、儲かる農業の実現を目指す。</p>				
				<p>左：光合成と植物生理を説明</p> <p>右：実証に用いた IoT 機器</p>	

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543